



決算説明補足資料

株式会社ラクト・ジャパン

—2018年11月期第3四半期—

目次

1. 連結業績概要 P. 2
2. 事業別売上高および販売数量推移 P. 3
3. 連結貸借対照表 P. 4

■ 参考資料

- ・ 当社の為替リスクと会計上の表示について
- ・ 売買取引のイメージ（為替の影響）

1. 連結業績概要



(単位：百万円)

	2017年 11月期 3Q	2018年11月期 3Q			2018年 11月期 年間予想
		実績	対前年 同四半期比 増減額	対前年 同四半期比 増減率(%)	
連結売上高	72,846	87,943	+15,096	+20.7	110,300
経常利益	2,320	1,924	△396	△17.1	2,600
売上高経常利益率(%)	3.2	2.2	△1.0	-	2.4
(経常利益に含まれる為替影響額※)	(+479)	(△161)	(△641)	-	-
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	1,573	1,291	△281	△17.9	1,800
売上高当期純利益率(%)	2.2	1.5	△0.7	-	1.6
一株当たり四半期 (当期)純利益(円)	321.75	263.91	△57.84		367.91
為替レート(円/USD)	112.50	109.73	△2.77		-
為替レート(円/EURO)	123.48	131.34	+7.86		-

(財務数値の表示は端数切り捨て)

※経常利益に含まれる為替影響額：当社は外貨建取引等会計処理基準における原則法を採用しているため、為替ヘッジの影響が売上原価と営業外損益の両方に計上されます。そのため売上原価と営業外損益両方に対する為替ヘッジの影響額を記載しております（詳細はP5以降の参考資料をご覧ください。）

2. 事業別売上高および販売数量推移

	2017年11月期				2018年11月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	年間予想
事業別売上高	(単位：百万円)							
乳原料・チーズ	13,573	16,349	19,276	20,821	21,972	21,839	21,856	78,400
食肉加工品	4,301	4,087	3,520	3,345	3,337	3,279	2,990	15,000
アジア-乳原料販売	3,253	3,627	2,895	3,574	3,436	3,866	3,128	13,500
アジア-チーズ製造販売	453	437	482	547	499	498	554	2,200
その他	197	201	194	201	216	218	248	1,200
売上高合計	21,777	24,701	26,368	28,488	29,461	29,703	28,778	110,300

事業別販売数量

(単位：MT)

乳原料・チーズ	35,772	39,795	47,729	49,589	53,509	50,658	50,149	184,500
食肉加工品	7,492	7,085	6,030	5,742	5,789	5,576	5,138	26,000
アジア-乳原料販売	10,847	12,258	10,068	11,841	11,977	14,454	11,977	49,600
アジア-チーズ製造販売	615	560	631	703	643	646	660	2,900

(数値の表示は端数切り捨て)

3. 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2017年11月末	2018年8月末	増減額
流動資産	43,491	49,711	+6,220
現金及び預金	4,006	5,245	+1,238
受取手形及び売掛金	17,198	18,935	+1,737
棚卸資産	21,446	25,182	+3,735
流動資産その他	839	348	△491
固定資産	2,413	2,495	+81
有形固定資産	559	581	+22
無形固定資産	20	38	+18
投資その他の資産	1,833	1,874	+41
資産合計	45,905	52,207	+6,301
買掛金	11,411	10,125	△1,285
有利子負債	19,778	26,403	+6,624
負債その他	1,929	1,832	△96
負債合計	33,120	38,362	+5,242
純資産	12,785	13,844	+1,059
負債・純資産合計	45,905	52,207	+6,301

主な増減要因

- 売掛債権・棚卸資産の増加
販売数量の増加
- 買掛金の減少
 - 関税延納制度（※）における延納枠切り替えに伴う旧枠で支払猶予を受けていた関税の支払
 - 前年度末に（独）農畜産業振興機構の入札で応札した商品の仕入が集中
- 有利子負債の増加
業容拡大に伴う仕入増加による資金需要増に対する短期借入金の増加

（※）関税延納制度：輸入者が輸入（納税・特例）申告をしたときに当該輸入（納税・特例）申告に係る関税の納期限の延長を申請し、かつ担保を税関に提出することにより納期限の延長を受けられる制度

（財務数値の表示は端数切捨て、内訳は主要項目のみ記載）

参考資料：為替関連

■ 当社は基本的に為替リスクを負わないビジネスモデル

海外仕入先との外貨建て仕入契約締結と同時に、国内顧客と円貨の販売契約締結。

その際、仕入外貨額に対する為替予約をすることで為替リスクをヘッジしている。

■ 但し、当社は外貨為替会計処理基準における原則法を採用しているため、

会計上の表示が特徴的

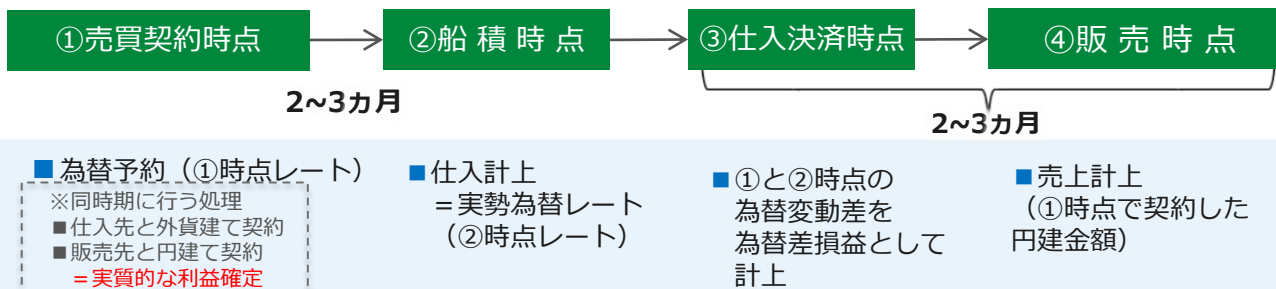
その特徴は、①為替差損益が売上総利益と営業外損益の表示の両方に影響し、

また②営業取引が期をまたがった場合、期間損益に影響を与える可能性がある。

しかしながら、最終的には当初の為替レートにより想定された経常利益と同額となるため、実質的な利益に影響はない。

売買取引のイメージ（為替の影響）

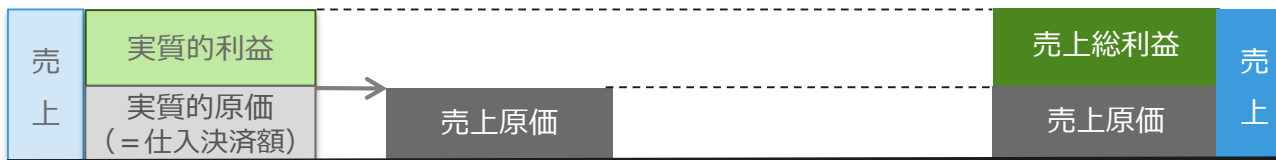
為替レートが変動しても、実質的な利益には影響しない。



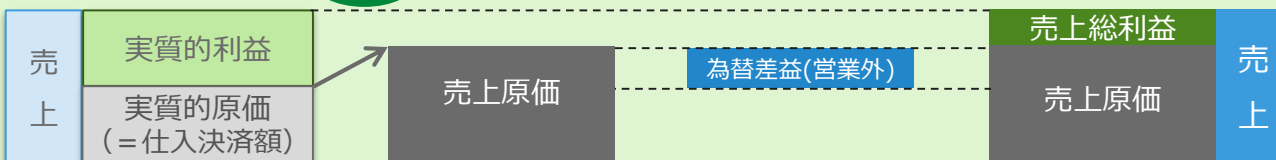
取引終了時（④まで終了）
 ④の販売まで終了した時点では、①～④時点の処理が通算され、①時点の実質的利益及び実質的原価と同額が会計上も計上される。

取引が途中で決算をむかえた場合
 ③時点と④時点の間に期末をむかえた場合、先行して、為替差損益(営業外)が計上される。

為替レート
変動なし

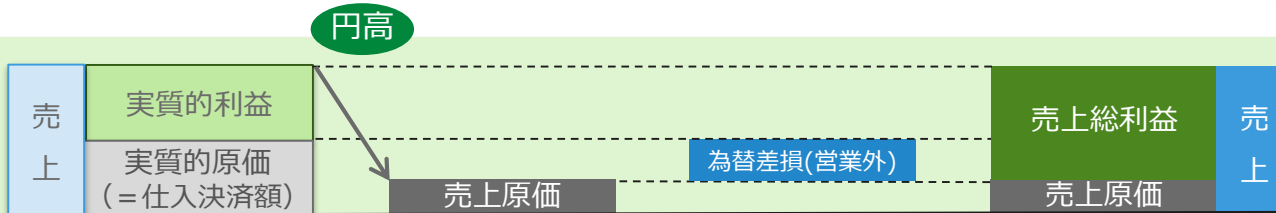


為替レート
円安



③時点では為替差益が営業外利益として先行して計上。
 →①時点の為替予約の金額より、②時点の仕入価格が高くなるため

為替レート
円高



③時点では為替差損が営業外損失として先行して計上。
 →①時点の為替予約の金額より、②時点の仕入価格が安くなるため